



第 14 回日本地震工学シンポジウム和文論文の投稿用フォーマット

佐藤太郎¹⁾、鈴木義男²⁾、石川順太³⁾

- 1) 東西建設技術研究所、室長 工博
e-mail : Sato-T@Tozai-TRI.co.jp
- 2) 南大沢大学工学部建築学科、教授 工博
e-mail : yoshios@MOU.ac.jp
- 3) 朱雀市庁、主幹

要 約

本文は第14回日本地震工学シンポジウムの論文を作成・投稿する際に必要となる書式や遵守事項をまとめたサンプル文書である。論文などは以下に記す書式に従ってワード・プロセッサなどにより作成する。投稿する際にはAdobe Acrobat を用いてPDF形式のファイルに変換し、その容量が5MB 以下になるようにする。投稿先は<http://www.14jees.jp/papers/>の論文投稿サイトである。なお、本書式は、日本地震工学会論文集の書式との違いが最小限となるように設定されている。

キーワード： 地震、工学、鉄筋コンクリート、せん断

1. 用紙のサイズ、余白、ページ数など

用紙サイズはA4判として、上の余白は25 mm、下の余白を35 mm、左右の余白を25 mm とする。ただし、1枚目だけは上部余白を40 mmとする。1段組に設定して、46字×45行（多少の前後は認める）に設定する。なお、要約部分およびキーワードの左右の余白は35 mm とする。ページ数は4ページ以上10ページ以下とする。ページ番号は振らない。

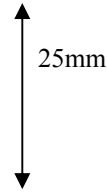
見本を参考にして、題名、著者名、所属、要約、キーワード、本文、参考文献、英文タイトル、英文著者名、英文所属、英文要約、英文キーワードの順に作成する。

2. 題目

論文タイトルは14pt. のゴシック体を用いて中央に印字する。

3. 著者名および所属

題目から2行の空白のあとに、著者名を14pt. の明朝体で中央に記入する。著者名の下に1行空白を設けてから、所属を中央に記入する。電子メール・アドレスを所有する場合には必ず記入する。和文は10pt. の明朝体で、英数字は10pt. の Times New Roman 体で記述する。



4. 要約とキーワード

所属の下に3行の空白をおいて要約を記述する。なお「要約」は10pt. のゴシック体で中央に印字し、要約本文は10pt. の明朝体（英数字は10pt. の Times New Roman 体）で記述する。

要約の下に1行の空白をおいてキーワードを10pt. の明朝体で左寄せで記述する（斜体とする）。

5. 本文と見出しなど

5.1 本文

キーワードから2行の空白をおいて、本文をはじめめる。本文は10pt. の明朝体（英数字は10pt. の Times New Roman 体）で記述する。章の見出しは10pt. のゴシック体として、前後に1行ずつスペースを設ける。ただし章の見出しがページの下端に来るのを避けるため、必要に応じて、見出しの前にもう一行入れる。句読点は全角の「、」と「。」で統一する。

5.2 小見出しなど

節の小見出しも10pt. のゴシック体として、前に1行のスペースを設けるが、後にはスペースを設けない。ただし節の小見出しがページの下端に来るのを避けるため、必要に応じて、小見出しの前にもう一行入れる。各パラグラフの先頭は1字下げて始め、パラグラフ間には空白を設けない。

6. 数式

数式は中央に印字し、式番号は(1)、(2)、として式の最後に右寄せして記す。なお式の上下には1行ずつの空白を設ける。

$$V_u = P_w \sigma_{w_j} b j \cot \phi + b D (1 - \beta) v_0 \sigma_{\beta} \tan \theta^* \quad (1)$$

7. 図・写真・表・脚注

図・写真の番号、タイトルはその直下に、表の番号、タイトルはその直上に、それぞれ10pt. のゴシック体で記入する。図・写真および表の呼称は図1、写真1、表1、のようにして、論文全体を通して番号を振り付ける。なお図、写真および表の左右には、文字を流し込まないことが望ましい。図、写真および表は本文から1行空けたあとに貼付する。

図・写真はカラー表示とすることを認める。

脚注¹

表1 観測地震動

日付	時刻	1F			5F	
		計測震度 相当値 (水平2方向 による)	最大加速度 (m/s ²)		最大加速度 (m/s ²)	
			N/S (梁間)	E/W (桁行)	N/S (梁間)	E/W (桁行)
10/23	17:56	4.4	0.72	1.07	1.78	3.26
	18:03	3.1	0.23	0.27	0.51	0.68
	18:12	3.1	0.12	0.25	0.43	0.70

¹脚注が必要な場合には引用ページの直下に、左端から5.0cm程度、0.5pt.幅の線を引いた下に、2行程度の範囲で10pt.の明朝体（英数字は10pt. の Times New Roman 体）で記述する。

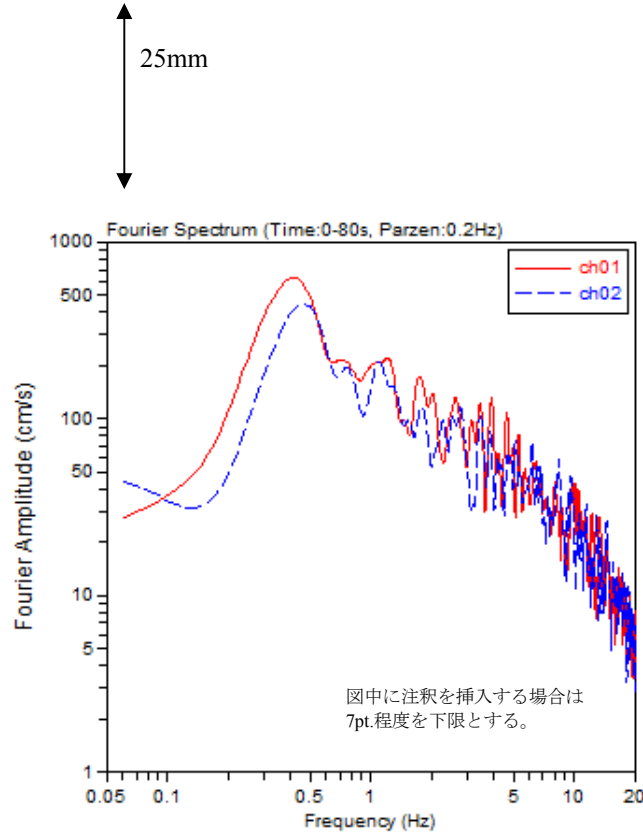


図1 観測波のフーリエスペクトル

動画の挿入は避け、もし動画が必要な場合は、自身のホームページに掲載し、論文にはそのリンク先を記載する。

8. 使用する単位

単位は原則としてSI単位系に統一する。

9. 謝辞と参考文献

謝辞がある場合には、本文の結論の末尾に10pt.の明朝体（英数字は10pt. の Times New Roman 体）で記述する。参考文献は10pt. の明朝体（英数字は10pt. の Times New Roman 体）で記述する。使用した順に番号を振って、結論のあとにまとめて掲げる。参考文献は、著者名（姓名）：題名、掲載誌名、巻、号、発行年・月、掲載ページの順に記載する。

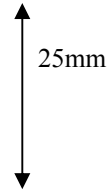
10. 英文題目、要約など

参考文献のあとに2行の空白を設けて、英文の題目、著者名、所属、要約およびキーワードを記述する。題目、著者名、所属は中央に印字する。

英文題目は14pt. のTimes New Roman 体のBold とする。1行空けて英文著者名を14pt.の Times New Roman 体で記述する。英文所属、要約およびキーワードは10pt. のTimes New Roman 体として、キーワードは*Italic* で記述する。なお、「**ABSTRACT**」はBold で中央印字する。著者名、所属、要約 およびキーワードのあいだにはそれぞれ 1行の空白を設ける。

謝 辞

本書式の作成に当たっては、日本地震工学会論文集の書式を参考にさせていただいた。記して御礼申し上げます。



参考文献

- 1) Paulay, T. : Moment Redistribution in Continuous Beam of Earthquake Resistant Multistory Reinforced Concrete Frames, Bulletin of New Zealand National Society for Engineering, Vol.9, No.4, 1976, pp.205-212.
- 2) 久保哲夫、小原明 : RC 造骨組に関する研究、日本建築学会梗概集、Vol.C、1987年、pp.719-720.

Instruction Format **for Journal of Japan Association for Earthquake Engineering**

SATO Taro ¹⁾, SUZUKI Yoshio ²⁾ and ISHIKAWA Junta ³⁾

- 1) Member, Manager, Technical Research Institute of Tozai Construction, Dr. Eng.
- 2) Member, Professor, Minami Osawa University, Dr. Eng.
- 3) Senior Engineer, Suzaku City Office

ABSTRACT

This paper presents format and some rules for papers of proceedings for the 14th Japan Earthquake Engineering Symposium. Paper title and authors' names should be written in both Japanese and English. Title in Japanese is typed by Gothic font of 14 pt., and title in English by bold style of Times New Roman font with 14 pt. Authors' names in Japanese are typed by Mincho font of 14pt., and those in English by Times New Roman font of 14 pt. Another texts should be typed with Times New Roman font of 10pt.

Keywords: Earthquake, Engineering, Reinforced concrete, Shear